

欧米のマクロ経済指標の改善を好感し、投資家のリスク回避姿勢は和らぐ

2011年12月21日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

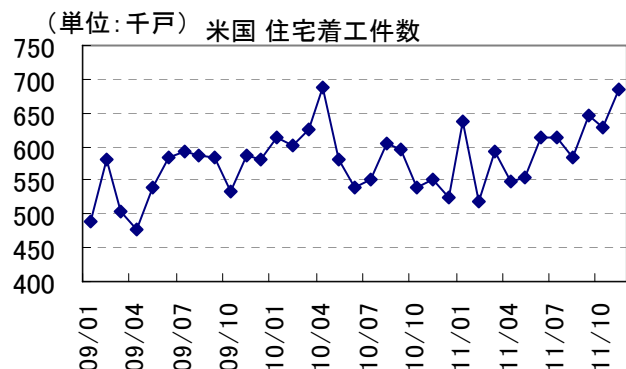
e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

欧米経済指標の改善や良好なスペイン国債入札を受けて、投資家はリスク回避姿勢を緩める

前日のユーロ圏財務相会合で、ユーロ圏諸国は1,500億ユーロをIMFへ追加拠出することで合意したものの、非ユーロ圏からの拠出については具体的な進展がみられず、欧州株式市場は反落して寄り付きました。しかし、その後発表された12月の独IFO景況感指数は予想に反して上昇し、スペイン国債入札の好調も伝えられてユーロドルが急伸し、スペインやイタリア国債利回りも一段と低下しました。商品先物市況も軒並み高となり、市場全体がリスク回避姿勢を緩めました。欧州株式市場も銀行株主導でプラスに転じると、その後は堅調な米株動向も追い風に一段高となり、高値圏で引けました。

スペインでは3ヶ月物、6ヶ月物の国債入札が行なわれました。調達額は56.4億ユーロと目標上限(45億ユーロ)を上回りました。また、平均落札利回りは3ヶ月物が1.735%(前回11/22は5.110%)、6ヶ月物が2.435%(前回は5.227%)といずれも前回より大幅に低下し、市場に安心感を与えました。

米国株式市場は欧州株高に加え、11月の米住宅着工件数が68.5万件(予想:63.5万件)、住宅建設許可件数が68.1万件(予想:63.5万件)と予想を大きく上回ったことなどを好感し、堅調に寄り付きました。NYダウはまもなく12,000ドルの大台を回復し、その後もエネルギー・素材、金融、ハイテク等の景気敏感株が牽引して右肩上がりの上昇となりました。結局、NYダウは前日比+337ドル高の12,103ドルと大幅反発し、本日の高値圏で引けました。



(出所) Bloomberg

総じて、欧米株式市場はこれまでのリスク資産を回避する流れから買い戻す動きとなりました。しかし、先週金曜日にフランスの格付け見通しをネガティブに引き下げた格付け機関フィッチが「フランスの格付け見通しの変更はE F S F 債の格下げリスクが高まったことを意味する」として、「E F S F に保証を提供しているAAA格のうち、1カ国以上が格下げされる可能性がE F S F 債の格付けに対する主要なリスクである」との見方を示しました。さらに、同格付け機関はスペインの主要8行の格付け見通しをネガティブにすると発表しました。欧州債券市場ではギリシャやポルトガル、フランスの国債利回りは上昇しており、欧州債務問題をめぐる状況は依然として不透明感が漂っています。

欧米株高を好感して日本株も景気敏感株中心に大幅続伸

欧米株高を受けて、日経平均株価は+100円近く上昇して寄り付きました。値上がり銘柄数は70%を超え、景気敏感株中心に幅広い銘柄に買い戻しが入りました。しかし、市場参加者が乏しい中、買い一巡後は膠着状態が続き、日経平均株価は8,400円台半ばで小動きとなりました。日銀の金融政策決定会合では全員一致で現行の金融政策を据え置くことが決まりましたが、事前の予想通りで市場へのサプライズはありませんでした。材料難の中、日経平均株価は結局、前日比+123円高の8,459円と2日続伸して引けました。東証一部売買代金は7,654億円と、今年最低を記録した前日の水準よりわずかな増加にとどまりました。

引け後に格付け機関R&Iが日本のソブリン格付けをAAAからAA+に引き下げると公表しました。これを受けて為替市場では円安方向に振れたものの、R&Iは11月時点で格下げ方向で見直すことを発表しており、市場への影響は短期的には限定的であると思われます。しかし、世界的に高水準である日本の政府債務残高への注目度は増しており、日本の財政再建を求める声が今後さらに高まってくるものと思われます。